

平成 29 年度 全国学力・学習状況調査の調査結果の分析

国語 A

32 問全ての設問において全国平均を上回り、平均正答率は 95% (全国平均 77.4%) でした。32 問中 7 問は全員正答で、漢字を正しく読み書きする力や文章の要旨をとらえる力、場面の展開に注意しながら読み、内容を理解する力において優れているという結果が出ました。全問正解者 28 名、1 問間違い 27 名であり、基礎・基本が十分に身につけているといえます。毎日の授業を大切にし、漢字テストや読書の時間での取組の成果が現れています。

国語 B

平均正答率は 94% (全国平均 72.2%) で、活用の問題においても十分な学力を有しているといえます。9 問全問正解者 60 名、1 問間違い 32 名でした。比較的正答率の低かった「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」という設問は、正答率 76.7% (全国 41.4%) でした。国語や総合的な学習の時間の授業において、課題を設定し、課題解決のための具体的な方法を考えて文章で表現するという取組をより充実させていきたいと思えます。

数学 A

36 問全ての設問において全国平均を上回り、平均正答率は 92% (全国平均 64.6%) でした。国語同様に基礎・基本が十分に身につけているといえます。全問正解者 7 名、1 問間違い 24 名という結果でした。正答率が低かった問題は、「関数の意味」の 43.7% (全国 20.6%) で、語句の意味や文章をきちんと理解していないことによるものでした。授業の中で、関数関係を見つけ表現する問題に取り組みさせることにより改善を図りたいと思えます。

数学 B

平均正答率が 81% (全国 48.1%) と全国平均を大幅に上回っています。15 問全問正解者 2 名、1 問間違い 26 名でした。良好な結果でありましたが、その中で比較的正答率が低かった問題は、「情報の適切な選択と判断」の 40.8% (全国 17.6%) でした。2 つの図形についての説明において、触れるべき内容が不十分であることによる間違いが大半でした。1 年生時に学習した内容であり、復習をして振り返らせ、定着を図っていききたいと思えます。

生徒質問紙

質問紙調査の結果から、本校生徒の学習に対する意欲の高さが表れています。「家で学校の宿題をする」、「復習をしている」(している・どちらかといえばしている の合計) 生徒

はいずれも過半数を超えています。さらに、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」生徒は67%（全国51.5%）「予習をしている」生徒は68%（全国31.7%）という結果になり、予習－授業－復習という学習サイクルを多くの生徒が意識し、計画的な学習に取り組んでいることがわかります。

また、「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたい」と考えている生徒は79.6%（全国64%）、「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたい」と考えている生徒は48.5%（全国31%）でした。国内にとどまらず広く世界に目を向けて自分の将来を考えている生徒が多いことの表れといえます。